

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490300346		
法人名	社会福祉法人 鈴鹿福祉会		
事業所名	グループホーム悠々		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町2943番地の4		
自己評価作成日	令和7年9月10日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2490300346-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和7年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【運営方針】私たちは、こころや思いといった気持ちを目に見えるかたちに表すことを旨として、利用者一人ひとりに対して接することにより、地域から信頼されるべき存在であり続けることを基本理念としています。
グループホーム悠々令和6年度の目標・方針
【ICT等のテクノロジーを活用し、根拠のあるケアの実践・質の良いケアの提供】を掲げ、認知症アセスメント・評価を丁寧に行い、科学的介護情報システムの運用、見守り支援機器等を活用しケアの質の確保とスタッフの負担軽減を図ります。令和7年4月より訪問看護ステーションとの連携により医療連携体制を形成。より医療体制の強化を図ることとなった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームは、田、茶畑に囲まれ遠くには鈴鹿山脈が眺められ、静かな環境に設立されている。介護サービスを一環とした特別養護老人福祉施設、短期入所生活介護事業所、デイサービス、居宅介護支援事業所を運営する法人の一つのグループホームである。グループホーム内は飾らず今まで過ごしてきた環境を、維持するように活かされている。いろいろなIC機器を取り入れ職員は、利用者に寄り添い毎日を楽しく健やかに過ごせるように工夫し支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に沿ってアットホームな環境で、入居者の方々に自分らしく主体性を持った生活をしていただけるように努めている。	理念は玄関に掲示しホームページやパンフレットにも記載し、運営推進会議で参加者に毎回報告をしている。また、毎月一度、地域への外出を兼ねて地域の方に存在を知らせる工夫をしている。職員に理念を年2回配布し、自己評価で理念を振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域主催の夏祭りや秋祭りに参加させていただいている。自治会のメンバーでもある。月に1回は近隣の飲食店にランチや喫茶やお買い物へ行って交流を行っている。	自治会長、民生委員、老人会会長には随時挨拶まわりをしている。地域行事（夏、秋祭り）には利用者と参加して協賛している。また、地域の店に毎月外食に出かけ交流を続けている。中学生が職場体験に来訪している。	賛同頂ける地域の喫茶店と協同して、地域住民、家族、民生委員等に認知症についての理解、相談、困っている事等を、話せる認知症カフェの取り組みをし、援助される事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の自治会会長、地区担当の民生委員の方々に取り組みをお伝えしている。HPにて日常の活用や研修等随時掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人及び事業所の事業計画や事業報告を行っている。また、外部評価からの課題や課題に対する改善計画の報告を行いながらアドバイスを頂いている。	自治会長、市担当者、民生委員、家族が出席し事業報告、現況活動報告、行事報告、研修報告、事故ヒヤリハット報告を議題として意見交換を行ない奇数月に、年6回開催している。出席できない家族には後日、会議録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鈴鹿亀山地区広域連合の担当者の方には運営推進会議開催毎にご参加いただいている。必要提出物や質問等メール・電話対応が多いが関係を築いている。	現況報告書、介護保険の書類提出時には市担当者と話をしたりメールや電話で情報交換をしている。法人理事も定期的に訪問し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回、研修を2回開催しています。研修を年2回実施している。身体拘束を実施しているケースはない。このまま身体拘束ゼロを維持していく予定である。	身体拘束委員会を3ヶ月毎に虐待防止委員会を含めて開催している。身体拘束、虐待防止の研修を実施し支援に取り組んでいる。言葉による拘束についても職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症、ケアの向上研修をそれぞれ毎月実施。虐待防止研修のいつかは年2回実施している。介護支援ロボットの稼働によりスタッフに心の余裕を持つことのできる環境となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止研修とともに年2回実施する体制にしており、常に質の良いケアに努めるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者が十分に行っている。希望があれば、事前に契約書をお渡ししている。HPを確認していただきながら説明もさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに家族代表と法人地理事に入っている。面会時には意見・要望はお伺いしている。	年1回、法人でアンケートを取っている。イベント様子や献立メニュー等を、ラインで送り意見を聞いている。面会時には事務所で意見の把握に努めている。利用者の好きな物を出して欲しいとの意見があり実行に移している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットの会議、業務会議、幹部会議を開催しており、意見や提案、連絡事項等の機会を設け、反映させている。	毎月の各会議の中で利用者にとって、何がいいのか？検討している。業務人事の意見が多いが職員の業務が少しでも、軽減化するようにＩＣ機器等の取り入れを検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	認知症実践者研修に前年度後期に各1名、今年度1名参加し履修となった。各種専門性・生産性を向上させ、処遇に反映させていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症、ケアの向上研修をそれぞれ毎月実施。認知症実践者研修及び認知症実践リーダー研修を受講してもう計画である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点では、研修参加ではあるが、認知症介護実践者研修や認知症介護実践リーダー研修に参加を通じて意見交換等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症である前に、ひとりの人間として見るように心がけている。アセスメント（ひもときシート、興味・関心シート、長谷川式簡易知能評価スケール等）活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まで苦労されてきている事を前提に話しをすすめている。不安に思られないよう職員は明るい声で挨拶などするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント（ひもときシート、興味・関心シート、長谷川式簡易知能評価スケール等）により抽出したニーズを丁寧に実行し、ご自身のコメント等日々の観察としっかりと評価の実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・タオルのたたみ作業、掃除、食器洗い、手作りおやつ等一緒に行っている機会を毎日設けている。共有スペースを互いにきれいに使用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一体感が感じられるよう、家族に写真や動画をLINEで送付している。HPも様子が分かる写真を積極的に掲載している。面会時やケア計画説明時にまとめた写真を見てもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会はあるが、知人・友人が訪ねてくることはあまりないのが現状です。時代にあった歌手の動画や懐かしの歌を共に歌うなどしている。	以前の様に知人、友人、近所の方等は来てくれることは無くなったので、毎月の外食によって地域の方々に馴染みが出来るように支援している、。また、美容院や実家へ外出する等、家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置を考えたり、役割を考慮して時間スケジュールを考えたりしている。グループでの取り組み（体操や調理等）を取り入れていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設・事業所へ移られた方でも入居者の家族がに困りごとあった際、介護保険サービスにつながる対応を行った例は過去に2例ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位になるようアセスメントにおいて思いや希望の把握に努めている。パーソンセンタードケアの考えのもと時に紐解きシートやチームケア推進シートを活用している。	アセスメントを年1回、更新している。利用者の思いは日頃からの利用者との会話、また、利用者同士の会話から傾聴したり、入浴時の会話等から把握に努めている。困難な場合は動作、仕草、表情から把握している。把握した意向、希望は業務日誌で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいて生活歴や馴染み生活、環境の把握に努めている。本人にも聞きながら、家族にも面会時を活用して情報を集める場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	紐解きシートにより心身の状態の整理をし、24時間の記録データ・支援ロボットによる睡眠データを収集。それらを使用し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	BPSDに関連した会議を月に1回行っている。訪問看護師や近隣の薬剤師とも相談して、意見や助言を計画に反映している。医行為の部分のフォローもお願いしている。	家族には面会時やライン等で意向を確認し3ヶ月毎にモニタリングをしている。カンファレンス後、支援内容を見直し年1回、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録等をPC入力ソフトに変更したところ、過去記録に遡ることが容易になった。様々なデータを確認しながら計画作成ができるようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居、受診時等の送迎、希望により散髪、訪問鍼灸、訪問歯科等訪問サービスの提供。また、季節によって起床時間を変更するなどして決められたスケジュールにとらわれない取組をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いていける距離に医療機関、薬局があり、半径3キロ圏内にはスーパー、ドラッグストア、喫茶店がある。機会があれば出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に主治医のクリニックがあり、必要時の相談・受診を実施している。訪問診療は月に2回実施。希望の医療機関や専門医療機関にも対応している。	利用者全員が協力医のかかりつけ医としており、月2回の訪問診療の他、緊急時24時間対応であり、更に訪問看護師の月2回健康チェックがある。協力歯科医からは口腔ケア、訪問診療もあり受診支援は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の協力医療機関の看護師、契約をしている訪問看護ステーションの看護師と連携体制にある。利用者の心身の状況により支援体制を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急や入院の際、主治医からの紹介状や情報提供書を提供。施設は心身の状態や服薬情報等の提供。退院時の調整はそれぞれが連携し、早期に実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を契約時の段階で説明をさせていたでいる。重度化や協力医が終末期の判断した場合、早い段階で意向確認を実施し、医療のカンファレンス（協力医療機関、訪問看護ステーション参加）を設けている。	看取りガイドラインで入居時に家族に説明している。看取りに対する対応について職員研修を開催した。重度化した場合は医師、訪問看護師、家族と話し合い看取りを希望された場合、意向に添った支援をしている。現在1名看取り支援がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡、看取り・終末期のマニュアルやチャート式の連絡法など活用し、体制を整えている。協力医療機関との取り決めや訪問看護ステーションとの協力体制も整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練（夜間を想定したり、ひとり対応を想定）、BCP訓練の実施している。連絡網はSNSを活用。状況に応じて近隣の医療機関、同法人特養に避難する事となっている。	防火管理者の指示の下、年2回通報、消火、避難、夜間想定訓練を実施した。職員との緊急連絡網はラインを活用している。避難場所は駐車場である。隣の病院にも協力を得ている。備蓄は米、水、冷凍食品、乾パンがあり、非常用品はサーチライト、手動ラジオ、カセットコンロがある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりの人として普通に接するよう意識することを心掛けている。さらに本人を否定する言葉、不安を抱いてしまう言葉・態度などを気を付けるように意識している。	見守りカメラや写真掲載は家族の同意を得て実施し、利用者には、さん付けで個々に合った呼称に合った呼称を用い、着替え、トイレ介助、入浴時等は同姓介助での支援等。本人の意志を尊重し自己決定を促す言葉など敬意を持ち対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	よく観察し言葉だけで判断することなく結論を急がずの対応を心がけている。少しでも指示語が少しでも減らし、相手の投げかける会話を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節によって起床時間を変更するなどして決められたスケジュールにとらわれない取組をしている。また、よく観察する事も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じような服に片寄らないように気を配っている。男性は髭を剃っていただき、女性は顔には化粧水、髪にはコンディショナーを使っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みでの食事提供であるが、おやつ作りを定期的に行っている。また、大判焼きや明石焼き、夏にはかき氷を配達を月に数回実施。希望者にはランチや喫茶に毎月行く事としている。	業者発注のメニューと共に、冷凍食材を湯せんして、美しい御膳に盛り付けをしている。ご飯、汁物は職員が作っている。利用者は行事食、手作りのおやつも楽しみにしている。また、毎月外食に出かけ楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クックチル製造の栄養管理と法人の管理栄養士の助言のもと必要量やバランスを確保している。嚥下状態や摂取量をみてゼリーやおにぎり、嗜好品への代替え等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との相談・助言等により口腔状態と対応方法を実践している。研修となる資料を毎月提供を受け共有化している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護ソフトの24時間シートのデータと見守り支援ロボットのデータを活用し、排泄のでの不快感の減少になればと試行錯誤である。排便に特化した支援機器のトライアル予定である。	全員がリハビリパンツ使用者である。排泄はトイレでと支援し夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。パターンを個々に把握し、声掛けや誘導により排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて乳製品や大豆製品等の提供をしながら、整腸剤や便秘薬を使用している。基本的なケアとしてはより良い姿勢の確保や体操・歩行機会の確保、体を冷やしすぎない対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はある程度曜日と時間帯は決めさせていただいているが、順番や湯加減を希望に沿って実施している。ひとりの入居者にスタッフ1名～2名の体制である。	週2回から3回、午後から入浴を楽しんでいる。職員と昔話、武勇伝、家庭の事等に会話が弾みゆったりと入浴を楽しんでいる。季節を感じる柚子湯も取り入れている。浴槽にはリフトが設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等を考慮しつつでも休息は取っていただいております。介護支援見守りロボットを活用し、不必要な巡回を軽減、良いタイミングでの離床の促し、睡眠の邪魔にならないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携している。薬剤情報は個人ファイルに最新のものを綴っている。いつでも確認できるようにしている。お薬手帳も整理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば洗濯ものをたたむ行為について、それらを全部出来る方、一部出来る方、ごく一部出来る方それぞれにあった内容・目標で取り組んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や初詣など定番の外出は必ず行うようにしている。地域の祭りにも必ず参加するようにしている。家族の方々も共に出かける企画を今年度中に実施する予定である。	定期的に外食及び喫茶店に月1回～2回出かけている。桜見物、初詣にも出かけた。家族の協力で美容院、実家へ行った。地域の祭りも楽しんだ。日頃は事業所周辺を散歩したり、ベランダで日光浴をこなし外気浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が預かっている。外食や買い物、喫茶などに行く際に、預かっている小口現金を利用している。お金を使う機会を増やしていきたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される入居者や家族が現在お見えにならない現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーにカレンダーを設置し不安がないようにしている。温度は適温を心がけ、廊下フロアーは簡素にし、清潔感を意識している。明るすぎない照明を使用し温かさを提供するなどして工夫している。	リビング、食堂は掃き出し窓になっており、窓から眺める景色は四季の移り替わりを感じさせてくれる。その為、採光が良く広くてとても明るい。利用者は日中の殆どをここで過ごし利用者同士や職員との会話を楽しむ憩いの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席位置には気を配っている（固定席を好む方、暖かい場所を好む方等）。季節によって机の位置を変えることもある。自由に過ごしていただく事を基本にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ってきていただいている。居室の中が使いやすいように位置の変更や撤去等、安全面を考慮した手すりの追加等工夫している。	ベッド、洗面台、備え付きのクローゼットが整備され、掃除が行き届き清潔で入居前の環境と変わることの無いように工夫されすっきりとした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識がしっかりされている方は、自身で取り組んでいただいおり、見当識の支障が強い方については、身の回りや居室内を安全な環境にして工夫・対応している。		